

Macedonia Eco-DRR Newsletter

Capacity Building For ECO-DRR Through Sustainable Forest Management In MACEDONIA _ Nov 2017 - Oct 2022

持続的な森林管理を通じた、生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）能力向上プロジェクト

本プロジェクトの目標は森林生態系の多様な機能を利用し、洪水、地すべり、土壌侵食、森林火災に対する生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）のモデルが開発されることです。

世界的な自然災害リスクの増大に伴い、Eco-DRRに対する期待は近年高まっています。

「森林回復計画」研修を実施しました

2021年11月3日、PENF(森林公社)の職員を対象に森林回復計画作成のための研修を実施しました。土壌流出や洪水などを防ぐ森林の機能を高めるには、裸地化した土地において森林の再生計画を適切に作成し、保全作業を計画的に実施する事が重要であるからです。

この研修では、初めにラドビシュ川とオラヴィシュカ川の2つの流域を範囲とするラドビシュ・オラヴィシュカ・レカFMU(森林計画区)の現場を視察しながら、4つに区分された森林機能類型区分計画(ゾーニング)の概要を復習しました。その後、プロジェクトの治山現場を視察し、森林回復計画作成のためのプロセスを学びました。研修の最後には、参加者を小グループに分け、治山施設と植栽地の施工計画マップを実際に作成してもらいました。プロジェクト専門家からは、自ら現場を歩き観察すること、ドローン撮影画像を用いて地形を詳細分析する事の重要性についても伝えられました。

2022年には、PENFの支所職員を対象とした森林計画に関する研修を予定しており、知見の普及を図っていくこととしています。



現場での説明(左) 施工計画マップ作成(右)

「地すべり地形判読」研修を実施しました



実習も行いました。PENF職員は苦戦しながらも航空写真の対象地を特定し、反射実体鏡でリスクエリアを入念に観察しました。

この技術を習得することで、PENF職員が経済的かつ効率的な植林計画を策定できるようになり、ハザードマップや森林機能区分作成にも役立てられる事が期待されます。

2021年10月27日～11月8日の間の4日間に渡り、植林や伐採を担当しているPENF職員を対象に、地すべり地形判読研修を実施しました。世界で広く利用されている航空写真判読技術を用いて、山地災害リスクに関連する典型的な地形の特徴を理解してもらう事が目的です。

研修では、航空写真の原理や様々な山地災害リスクがどのように発生するのか、その地形の特徴を基礎から学びました。また、反射実体鏡を使用して、ラドヴィシュヤやチャシュカ市のFMUにおけるハザードリスク判読の

ドローントレーニング

CMC(危機管理センター)とPENF職員を対象にドローントレーニングを実施しました。機体のセッティングやコントローラ操作の復習から始め、手動操作と自動操作を学びました。天候に恵まれた日には飛行操作にも挑戦しました。



森林政策ワークショップを実施しました



グループディスカッション

2021年11月9日、第2回森林政策ワークショップをハイブリッド形式で開催しました。スコピエ市内の会場にはCMC(危機管理センター)やベレス支所を含むPENF(森林公社)の職員が参加し、オンラインでは、MAFWE(農業・森林・水経済省)やシリル&メトディウス大学森林学部の教授らが数名参加しました。

このワークショップでは、プロジェクト専門家による事前調査の結果を踏まえながら、北マケドニアにおいてEco-DRRを主流化するには政策をどう改善すべきかアイデアを出し合いました。結果、5つの改善案がまとまりました。

この改善案は、プロジェクトの貢献の1つとしてMAFWE(農業・森林・水経済省)に引き渡されます。また、IPA II(The Instrument for Pre-accession Assistance)のコンサルタントにも活用される事が期待されます。

北マケドニアにおいてEco-DRRを主流化するためには、政策改善案を継続的を打ち出し、成熟させていくことが重要です。その為にも、本ワークショップに参加した森林政策に関するワーキンググループが積極的に動き出す事が期待されます。



アイデアの書き出し

第5回JCCを開催しました

2021年11月12日、第5回JCC(Joint Coordinating Committee)を開催しました。今回はCMCの事務所とオンライン参加者をつなぐハイブリッド形式での開催となり、CMC、PENF、MAFWE、日本大使館、JICA本部、JICAバルカン事務所、そしてプロジェクト専門家と総勢18名が参加しました。

会議は本プロジェクトのダイレクターであるCMC長官ストヤニッチェ氏(Mr. Stojanche Angelov)により進行され、2021年の活動および2022年の活動計画が確認されました。そして、新型コロナウイルス感染拡大によるプロジェクト専門家の渡航延期に伴い生じている治山工事の遅延へ対応するため、プロジェクトの実施期間を1年延長する事について参加者の承認が得られました。



JCCグループフォトセッション

今半期 成果毎の主な活動

共通の活動

- ◆専門家の現地渡航を本格的に再開
- ◆第5回TCG、第5回JCCの開催

成果1: MKFFISの機能強化および活用

- ◆MAKFFISとGFIS開発検収完了
- ◆GFISトレーニングの実施
- ◆地すべり地形判読研修の実施

成果2: 森林管理計画強化

- ◆森林回復計画研修の実施
- ◆第2回森林政策ワークショップの実施
- ◆チャシュカ周辺FMUドローン撮影・ドローン研修実施

成果3: 治山+植林技術能力向上

- ◆ラドビシュ北 治山工事・植林開始
- ◆ラドビシュ南/北 苗木の生存率モニタリング継続
- ◆測量研修の実施

成果4: Eco-DRR啓発普及

- ◆Eco-DRRプロモーションビデオの取材編集
- ◆SNS等による広報活動の継続



Macedonia Eco-DRR
Facebook



次期半期のイベント

- ラドビシュ北 治山工事・植林継続
- リシチェ 治山工事・植林開始
- ラドビシュ南/北 捕植とモニタリングの実施
- MKFFIS研修の実施
- 治山技術効果・苗畑機材のモニタリング継続
- Eco-DRRプロモーションビデオ制作継続

コンタクト



危機管理センター
Crisis Management
Center (CMC)
HP: www.cuk.gov.mk/mk

プロジェクトオフィス

Dimce Mircev No.9, Skopje, Macedonia
Tel: +389-2-3249-115/145/146
E-mail: EcoDRR.MK@gmail.com
HP: https://www.jica.go.jp/project/north_macedonia/001/index.html



森林公社
Public Enterprise
National Forests (PENF)
HP: www.mkdsuni.com.mk



独立行政法人
国際協力機構